

月刊

軽音楽部

発行：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
配布：全国2,040校の高等学校軽音楽部



全国約4,800校の 高校に軽音楽部を！

※現在、軽音楽部があるのは2,042校です（令和6年11月1日当協会調べ）

軽音楽部の諸活動を通して 若者の成長を応援しています



写真は第10回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会で準グランプリを受賞した三重県立津西高等学校のぼうんでい裁判所です

生徒を主役に据えた部活動のススメ

玉木博章

日本部活動学会 理事／中京大学、名古屋音楽大学ほか 非常勤講師

軽音楽部の活動で自信の筋肉が養える

エドワード・コール

フェンダー・ミュージック株式会社 代表取締役 社長／アジアパシフィック 統括

学校や卒部生に応援される部を目指して

松岡朋宏

三重県立津西高等学校 オリジナルソング部 顧問

DTM 導入による軽音楽部の活性化と新たな可能性

大会の「効果」と「注意点」～後編～、VUCA 時代における顧問の関わり方

数字で読み解く軽音楽部、Report：Special Live at Fender Flagship Tokyo

シン軽音楽部、軽音協イベント・カレンダー



月刊 軽音楽部
バックナンバー



軽音楽部員必見
デジタル版記事

軽音楽部に関する
コンシェルジュです。
どんな事でもお気軽に
ご相談ください。



特定非営利活動法人（NPO法人）

全国学校軽音楽部協会

Japan Association of School Light Music Club



2024

11

VOL.80

次号は11月25日発行

全国約4,800校の 高校に軽音楽部を！

※現在、軽音楽部があるのは**2,042校**です（令和6年11月1日当協会調べ）

軽音楽部の諸活動を通して若者の成長を応援しています

1 軽音楽部を知ってもらおう

軽音楽部は、部活動としての歴史が浅く、古いポピュラーミュージックやバンドへの偏見も一部に残っており、正しく認知されていないのが現状ですが、軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めましょう

2 地域や社会に貢献しよう

軽音楽部の活動は、日々の練習や演奏会などへの出演、大会やコンテストへの参加だけでなくとどまらず、音楽を通して、地域や社会貢献につながる活動をしましょう

3 自主自律した部活動を目指そう

学校教育の一環と言われる部活動のひとつとして、VUCA* と呼ばれる、正解のない時代に翔ける人間の育成を目指し、生徒自身が考えて行動する部活動を目指しましょう

*VUCA（ブーカ）とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を意味します

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております
詳しくはこちらまで…



特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	フェンダーミュージック株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	有限会社エムエージー
名古屋芸術大学	株式会社トップトラベルサービス
宝塚大学	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社サウンドハウス
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社池部楽器店
名古屋スクールオブミュージック＆ダンス専門学校	

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.80 ■創刊：平成25年12月18日（水）■新創刊：令和6年3月25日（月）■発行：令和6年10月25日（金）／第13巻11号通巻80号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO法人）全国学校軽音楽部協会 JASLMC（Japan Association of School Light Music Club）
〒224-0003 横浜市中区中川中央1-37-6-405 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900 E-Mail：info@keionkyo.org
■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

interview

学校教育の視座



生徒を主役に据えた部活動のススメ……4

日本部活動学会 理事 玉木博章
中京大学、名古屋音楽大学ほか 非常勤講師

部活動を考える



軽音楽部の活動で自信の筋肉が養える……6

フェンダー・ミュージック株式会社 代表取締役 社長
アジアパシフィック 統括 エドワード・コール

優勝校顧問に聞く



学校や卒部生に応援される部を目指して……8

三重県立津西高等学校 オリジナルソング部 顧問 松岡朋宏

contents

DTM 導入による軽音楽部の活性化と新たな可能性.. 10

大会の「効果」と「注意点」～後編～..... 12

VUCA 時代における顧問の関わり方..... 14

数字で読み解く軽音楽部..... 16

report

Special Live at Fender Flagship Tokyo..... 17

シン軽音楽部 18

軽音協イベント・カレンダー 19

音楽／エンタメ業界の仕事 2024

プレイヤー（演奏者）の仕事

専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー..... 22

From Chief-In-Editor

他者に学ぶ。先駆者の経験に学ぶ

全国には高等学校が約4,800校あります。ほぼすべての高校の文化祭では、体育館などを使用してバンドのライブ演奏が出し物としてあると思いますが、部活動が存在するのは約4割の2,000校に過ぎません。当協会では、日頃の練習成果を発表する場として、3つの地域でブロック大会を開催しています。具体的には、関東大会、中部大会、近畿北陸大会の3地域で、参加対象となる高校数は約1,500校、全国の軽音楽部の75%をカバーしています。

その3地区では、大会の回を重ねていく度に演奏のレベルが上がり、高校生の伸び代の大きさに毎度驚かされるのですが、他方で、コンテストでの上位入賞を目指すあまり、競争に走ってしまう傾向が出てきているのも事実です。軽音楽部は芸術や文化を対象にした部活動であり、運動部のように優劣がはっきりと客観的に現れるものではありません。にもかかわらず、どのようにすれば審査員から高評価を得られるだろうという意識が働いたり、1位を逃すと明らかに意気消沈した表情で表彰式に臨む姿を見ると心が痛みます。大会が終わる度に今回の審査はどうだったのかと議論を重ねていますが、音楽に優劣はありませんので、審査結果に正解はありません。

悩んだ挙句…他の文化部活動の評価方法から学べないかと考え、（愛知県の）高等学校文化連盟の中から、吹奏楽専門部、郷土芸能専門部、演劇専門部の部会長に、それぞれの専門部ではどのように評価基準を決め、誰がどのように審査しているのか、率直に聞いてみることにしました。結果は本文にまとめましたが、どの部活動も同じような悩みを持ち、長い歴史の中で試行錯誤を繰り返し、現在の方法に落ち着いたというのがオチでした。3つの専門部の歴史は長く、戦前から活動している部もあり、それに比べて軽音楽部の歴史はものすごく浅く、戸惑うのも無理はありません。今後は先駆者に学び、議論を重ね、試行錯誤を繰り返すことが大切だ…と、ぐるっと回って、当たり前な結論に達しました。



三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

Email mitani@keionkyo.org

Facebook yoshiyuki.mitani

X (Twitter) @mitaniyoshiyuki

部活動を通じて、自分たちで真剣に悩み、考える過程がこれからの時代は大切である

学校教育の視座

生徒を主役に据えた
部活動のススめ

玉木博章

日本部活動学会理事
中京大学、名古屋音楽大学ほか非常勤講師

「学校教育の一環である」と言われる部活動ですが、仲間と一生懸命に励んだ経験や過ごした時間というのは、社会に出た際にどのように活かせるのでしょうか。そこで今回は「学校教育」という視点から部活動の在り方や存在意義について、日本部活動学会の理事であり、大学で教職科目を教えている玉木博章氏に伺いました。

あの音楽部は典型的な吹奏楽部で、音楽部という名前の割には、僕のような音楽のニーズを持っている子どもには対応していなかったんですね。ピアノも趣味としてやっていたので、基本的に好きな曲を弾いていましたし、音楽ってそういうものだと子どもの頃は思っていたんですよ。でも、ああいった音楽部が存在することが子どもながらにショックで、逆にそれが軽音楽の活動につながってくるんですね。

●部活動の経歴をお聞かせください…
玉木…愛知県は小学校から部活動がある珍しい県なのですが、小さい頃からピアノを習っていたこともあり、音楽部に体験入部してみたいんです。すると、子どもながらに雰囲気の高さを感じたのと、「今はこの楽器しかないから、これを担当してくれる？」という感じで、トロンボーンを渡されて…。僕は、昔から自分がワクワクすることをやりたいタイプで、当時も「部活動だし、どうして好きでもないことをやらないといけないの？」という風に感じ、音楽自体も嫌いになりそうだったので、音楽部には入部しませんでした。今考えると、

中学時代は「スラムダンク」が流行っていたこともあり、仲の良かった友人とバスケットボール部に入部しました。練習を続けていくうちにプレイもうまくなつて、面白いと感じていたのですが、「絶対に勝ちたい！」という気持ちは、あまりなかったんです。それでも、中学2年生の後半くらいに、周りの同級生たちの間で「勝ちたい」という機運が高まりすぎてしまい、土曜日や日曜日にも練習に費やすようになり、音楽部と同じく、ここでもバスケットボールが嫌いになりかけてしまったので、退部しました。

その後は、水泳部に所属したのですが、元々水泳が得意だったのと、何でも構わないから体を動かしたいと考えていたので、卒業するまで練習に励んでいました。今思うと、多くの運動部活動って、僕のような「単に体を動かしたい」といったニーズの生徒には、合っていないですね。

●高校では軽音楽部に所属していたと…

玉木…中一から家でギターを弾いていて、「高校に入ったら、バンドを組んでみたい！」と思っていたので、入学後、すぐに軽音楽部に入部しました。実は、部活動の研究を本格化させてから、当時の顧問の先生と話す機会があつて、そこで初めて知ったのですが、その先生は楽器経験者であるのに、僕たち部員には一切楽器を演奏できることを言わなかったんです。当然僕たちは知る由もないので、文化祭のリハーサルの時などに演奏を見てもらつては「すごく良かったよ」とか「うまいじゃん！」と言ってくださるのですが、バンドメンバーは「音楽のことがわ

からない先生に言われても別に…」という感じで、気にしていませんでした。部員からもそんな風に思われ、頼りにされていなかったのですが、先生は一切「（楽器やバンドが）できる感」を出さなかったんです。すごいですよね。大抵の経験者は自分語りをするのですが…。そういうのが一切なくて。生徒に軽んじられても未経験を演じ続けて、良い意味で、ずっと騙されていたし、今も騙し続けているらしいんです。「部活動」というプラットフォームの中で、生徒同士の出会いの場を作り、生徒が主体となつて、思い思いに活動する…という素敵な部活動でした。先生自身にも音楽性や嗜好があるので、それが「それは君たちのものとは違うじゃん」ということをすごくわかつていらつしやる先生で、それを着任した30年以上前からされているということ、その事実を知り、ますます尊敬の念が増しました。

軽音楽部の大会を見学させていただくと、僕自身もギター&ボーカルをやっていたので、出場するバンドの演奏に対して思

うことはありますし、アドバイスなどと言いたくなるのですが、そこで（経験者の）顧問の先生が口出しをしたくなる気持ちわかつたんです。経験していたからこそ、「違う、そうじゃない！」という感じで、良かれと思つて言ってしまうんですよ。それを我慢するのは難しいことですし、その雰囲気は一切出さなかつた当時の先生は、教育者だな…特別活動とか自治がわかつていたんだな…と思いました。

●経験者である先生が顧問になると、どうして

うしても大会至上主義や競技（勝利）志向に走りがちになると思います。そういった中で、顧問の先生に専門知識は、どこまで必要なのでしょうか？

玉木…僕は、顧問の先生に（部活動の）専門知識は必要ないと考えています。生徒から頼られることのない顧問で良いと思いますし、僕自身の体験談としても、当時の顧問の先生からいろいろな指導を受けて、言うとおりにしていたら、私たちのやりたい活動はできていたのだから…？と思います。顧問の先生に好まれるバンドや音楽性になつていたかもしれないですね。「青春の1ページ」じゃないですが、部活動だからこそ、自分たちは何をしたら良いのか？今の課題は何なのか？ということを実際に悩み、考える過程が特にこれからの時代は大切だと考えています。先生というよりも、もう自分でルールを作つていかなければいけない時代ですからね。

現代の若者世代は「テンプレートが好き」というのを耳にしますが、すぐに正解を求めたり、正しい方向を聞きたがるんですね。考えているけれど、

●軽音楽部の顧問の先生方にメッセージをお願いします

玉木…「生徒を主役」にした顧問の関わり方をしていただきたいと考えています。実は、以前勤めていた高校で、軽音楽部の顧問もどきを務めていた時期があつて…。僕が音楽や楽器の経験があることを聞きつけた生徒たちが「先生、楽器がで



きるんでしょう？ぜひ顧問になつてくださ

い」「メンバーが足りないの、手伝ってもらえませんか？」という感じで、相談を受けたことがあります。ギターやキーボードを演奏できるので、「どんな曲を演奏したいの？」と聞いた上で足りないパートの音を補う形で、手伝っていたんです。ですが、当時から決して主役になることはせず、あくまでも「オブサーバー」という立場を徹底しました。思うところはあるけれど、基本的には何も口にしな

いで、「先生、何か感じるところはありますか？」と聞かれた時だけ、「決めるのは君たちだし、これは僕の意見だから、聞かなくても良いんだけど…」という断りを入れた上で、アドバイスをしたり、講評を伝えていました。絶対に前へ出ることはなかったですし、メインは生徒たちであり、自分はバックバンドのメンバーのような関わり方で接していました。学生時代から、ずっとギター&ボーカルをやっていたので、歌わないで演奏に集中するというのは貴重な体験でしたし、僕が軽音楽部に所属していた当時の顧問の先生の方針も相まって、僕が考える「部活動の在り方」を形成していると思います。頼まれたら手伝うこともありますが、基本的には生徒たちに任せるべきであり、顧問がメインになつてはいけません。そういう意味では、顧問の先生はバンドで言う「サポートメンバー」であり、軽音楽との関わりが「バンドとして演奏する」以外にも様々な存在することを伝えてあげられる「イベント」であるべきですね。

インタビュー・三谷佳之

部活動を考える

エドワード・コール
フエンダー・ミュージック株式会社 代表取締役 社長
アジアパシフィック 統括

株式会社代表取締役社長
アジアパシフィック 統括

エドワード・コール (Edward Cole)

ラルフローレン・ジャパン社長を含む、自身の25年以上に及ぶキャリアを活かし、2014年に1946年以来、音楽の歴史を変えてきた世界有数の楽器メーカーであるフェンダー・ミュージック・インスツルメンツ・コーポレーションの日本法人を設立。現在はアジアパシフィック統括を務める。

●音楽的な背景をお聞かせください…
エドワード…私は5人兄弟の末っ子として、アメリカのシカゴ郊外で生まれました。家族のことを振り返ると、音楽が身近にある家庭だったと感じています。特に印象に残っているのは、1971年（

●バンドの中には「社会の縮図」が詰まっていると言えます。バンドがこれからの社会を担う若者に与える影響には、どんなものがあるとお考えですか？

バンド活動を例に挙げると、ギターを弾いたり、歌を歌ったり、作詞をしたり、メロディを考えたり、長く続けていくと、できること（スキル）が増えて、皆さんのスタイルがどんどん形成されていくと思います。そこで、私の言葉で若い方々に伝えたいことの1つに「自信の筋肉」を挙げたいです。バンドでオリジナル曲を作ったり、部が1丸となってイベント

●「音楽は人生を豊かにする」と、よく言われますが、楽器メーカーとして「音楽を聴くのが好き」という人を「楽器を

演奏してみたい」と思わせるには、どんな
施策や橋渡しが必要だとお考えですか？
エドワード…まず、私たちフエンダーが業
界をリードするエレキ・ギター、エレキ・
ベース、アンプ・ブランドである立場から
申し上げるとすると、「どんな音楽の旅路
にいる方々も私たちは全力でサポートする
んだ！」ということを標榜しています。

「音楽が好き!」という段階と「楽器も演奏します」という段階の、いわば「裂け目」のようなものを乗り越えるためには、「自分を許してあげる」ような気持ちを持つても良いのではないかと考えています。これは楽器に限ったことではなく、何か新しいスキルを身に付けたり、学びたい場合にも言えることです。例えば、「○

○をやつてみたいな……」という思い付きやアイディアの段階から始めても、しばらくすると難しい段階や困難な壁が現れて、それらに挑戦しなければいけない瞬間が訪れると思います。何度も練習を重ねて、それらにチャレンジして……というのは苦しい過程ですし、最初からうまくいく人なんて誰もいません。でも、私はそれで良いと考えています。

エドワード…まず、どちらも周年を迎えており、フェンダーのストラトキャスターが今年で70周年、ハローキティも今年で50周年という記念すべきタイミングです。また、ハローキティは世界を見渡しても、文化的なアイコンとして、非常によく知られている存在だと思います。当社も「自己表現」や「人々が」活躍できる場所」「クリエイティブティ（創造性）」などに重きを置いており、日本からの偉大な文化の輸出という観点からもハローキティは世界中で親しまれています。ですので、双方が今回のような形でコラボレートすることは単純に楽しい体験ですし、ハローキティが好きな方はもちろん、フェンダーのギターが好きな方にも喜んでいただけるトピックになりました。

●最後に、軽音楽部の顧問の先生方にメッセージをお願いします

つまり、「楽器を弾きたいな……」というアイデアの段階から、実際に弾けるようになる、いわゆる「橋を越える」ような体験は私自身もしてきましたし、多くのプレイヤーが経験しています。最初からギターが上手に弾けるような人はいないので、根気よく練習を重ねるしかありません。その橋を乗り越えることで「楽器を演奏するのが好き」という人たちが増えていきますし、その先は、自分で曲を作ってみたり、バンドを組んでみたり……という段階に移行していくと考えています。

●今回、ハローキティとコラボレートした経緯を教えてください

エドワード…まず、私は顧問の先生方に、「ありがとうございます」という気持ちを一番に伝えたいです。すべての開始点は学校であり、生徒の皆さんが楽器の弾き方を学び、演奏するところからスタートしています。上級生や顧問の先生方のご指導があり、ライブや校内行事などを通じて、日々の活動に刺激を与えていただいているからこそ、部活動としての軽音楽部の取り組みが活発に行われているのだと思います。当社としても顧問の先生方の存在は本当に頼もしく、重要だと考えていますので、感謝の念しかありません。

インタビュー・三谷佳之



部活動での取り組みがきちんと評価されるよう、学校生活がマイナスであってはいけない

入賞校顧問に聞く

学校や卒部生に応援される部を目指して

松岡朋宏

三重県立津西高等学校オリジナルソング部 顧問

●「第10回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会」での準グランプリ受賞、おめでとございます。受賞した「ばうんでい裁判所」は、どんなバンドですか？

松岡…彼らは2年生4名、1年生1名の5人組バンドで、一部の生徒を除いて、入部前からそれぞれの楽器を演奏していた経験者たちです。1年生のギタリストの子はキーボードの演奏歴が12年もあり、次に演奏する予定の曲はギターではなく、キーボードを弾くそうです。小さな頃から音楽や楽器に触れてきた部員たちで、表現力の面も含めて、部の中でも特にポテンシャルの高いメンバーだと思います。

本校では、どの部員も固定バンドに必ず所属するのですが、バンドを再編する時期が年に2回あります。1つは、6月に行う3年生の引退ライブの前で、もう1つは10月の文化祭前になります。文化祭で披露するバンドは同学年で結成しているのですが、一方の引退ライブは学年関係なく、自由にバンドを組んでいます。ちなみに、中部大会で準グランプリをいただきたい

た彼らは長く活動していた固定バンドではなく、ボーカルの生徒が「コンテストに出場するために一緒にやらない？」と声をかけて、結成されたバンドです。

●現任校への着任時期や部の顧問歴は？

松岡…私は本校に着任して、今年で5年目になります。オリジナルソング部の顧問歴は4年目です。着任1年目の文化祭で、オリジナルソング部の部員たちがステージで演奏している様子を見たのですが、歌が抜群に上手な子がいたんです。SUPER BUTTER DOGの「サヨナラCOLOR」という曲を演奏していたのですが、選曲も良いし、歌声も素敵だし、衝撃を受けてしまつて…。すぐに顧問の先生に声をかけて、「ぜひ一緒に顧問をさせていただきます！とお願ひし、翌年度から顧問になることができました。私自身は大学3年生の頃にバンドをやりたいと考えるようになって、ドラムを始めました。教員になる前ですが、名古屋で2年間ほど、バンド活動をしていた時期もあります。

●部員数やバンド数、コーチなどは？

松岡…部員数は1年生が21名、2年生が23名の計44名です。ちょうど今の時期がバンド再編のタイミングなのですが、バンド数は大体10バンド前後です。

コーチに関しては、昨年度まで顧問を務めていらつした松井先生がギターもベースも弾ける先生で、私もドラムのことがかかるということで、良い棲み分けができていたのですが、松井先生が転勤されてしまひ、今年度の顧問は私のみになりました。どうしたら良いかな…と考えていたところ、バンド活動をしていた時のボーカリストが今も活動していたので、ボーカルを中心にミュージシャンの知り合いに声をかけて、練習の様子を見に来ていただくことがあります。常に部のことを見てもらえるようなコーチはいませんが、文化祭や引退ライブ、大会前などのタイミングの合うところで年に数回、練習を見に来てもらったり、練習の様子を撮影して、アドバイスをいただいています。

●普段の活動内容と年間行事は？

松岡…月曜日から金曜日の平日に活動していますが、引退ライブや文化祭、コンテストなどのイベントが近くなつてきたら、土曜日や日曜日にも練習に充てることがあります。

年間を通した行事予定は先ほども述べたとおり、6月の引退ライブと9月の文化祭、この2つを大きなイベントとして活動しています。それ以外には、4月に新入生を対象にした歓迎ライブをはじめ、8月や9月には本校の学校見学会に中学生が来校するので、そこでも校内ライブを行っています。あとは、部員だけになりませんが、クリスマスやバレンタインなどの行事ごとにミニライブを行うことがあります。

●機材や環境は恵まれていますか？

松岡…なかなか厳しい練習環境だと思います。部として使用できる部屋は2ヶ所なのですが、写真にある部屋がメインの練習室です。大きな音を出せるのはこの部屋だけで、楽器や機材は少しずつ買ひ足していったものばかりです。予算が潤沢

にあるわけではないので、昨年度はドラムセットを新調したのですが、シンバル類は今年度に一新したいと考えています。

もう1部屋は荷物や備品類を置けるスペースで、そこにはミニアンプや電子ドラムがあります。多少は練習ができるようになってはいるのですが、そこでは大きな音が出せないため、メインの練習室をバンド単位でローテーションを組んで、使用しています。

●貴校ならではのユニークな活動は？

松岡…いろいろと振り返つてみたのですが、文化祭と引退ライブの前に演奏順を決める「オーディション」を大々的に行つており、それがユニークかもしれないと思いました。歴代のOBの方々が、わざわざ本校まで来てくださり、1バンドずつ審査を行い、平均点の高かつたバンドから演奏順を選べるようにしています。前顧問の松井先生のお人柄のおかげなのですが、だいぶ前に卒業した方たちにも来ていただけていて…。部員たちはドキドキで、緊張しながら演奏を披露するのですが、そういったオーディションも活動の励みになっています。

●部活動を運営する際の方針は？

松岡…今年度から私が主顧問を務めることになり、初めてのことばかりなのですが、どんな風に部を運営していきたいかな…と考えた時に「音楽以外の部分で評価されるのは良くないよね」と、いつも部員たちに話しています。例えば、日頃の学校生活や授業態度だったり、テストの成績や出席日数など、学生としての根

●貴校の部を一言で表すと、どんな部活動ですか？

底の部分がマイナスであつては、せっかく大会などで賞をいただいたとしても、喜べるものではありません。正當に評価をいただけないような行動を取るのとは間違っているし、せっかく音楽をやっているんだから、その音楽がきちんと評価されるように、普段の生活習慣から気をつけよう、と伝えています。学校に認められた部活動の1つですし、学校生活があつた上で、部活動は成り立っています。普段の行動が周りの人たちの評価や応援にもつながっていくので、どの部員も意識を高く持つて行動して欲しいですし、顧問としても頑張る部員たちをサポートしてあげたいと考えています。

松岡…なかなか表現するのが難しいのですが、良い意味で「カオス」に感じています。近年の軽音楽系部活動の傾向として、YASOBIやヨルシカをはじめ、ボーカロイドも含めた音楽や文化が浸透しており、単純に「バンドを組みたい！青春がしたい！」と言つて入部してくる生徒よりも、音楽がきっかけで楽器に興味を持つ子が増えており、割と大人しい生徒が増えている印象があります。もちろんバンドや楽器が大好きな子もいますし、性格や背景がまったく異なる人たちが大人超も集まっているため、いろいろな問題が絶えないのですが(笑)、1つずつ乗り越えながら活動しています。

インタビュー・三谷暢之



松岡朋宏

三重県津市出身。教員歴12年。教科は数学、担当分野は教務部主任。今年度から主顧問となり、関わる人全員にとって楽しく音楽の話ができる部を目指している。好きなバンドは赤い公園、Aooo、childspot。

DTM導入による軽音楽部の活性化と新たな可能性

DTM（デスクトップミュージック）とは、パソコン上で音楽を構築していくことで、主にオリジナル楽曲創作のために行われます。軽音楽部の中で、楽器演奏が苦手だったり、バンドでの活動が少し窮屈に感じたり、自分の創作アイデアを形にしたい…と思っている部員がいる場合、DTMのような個人作業を取り入れることも有効です。その際の可能性や課題を考察してみよう。

部活動は協調性と人間力を学ぶ場

軽音楽部は、その名の通り軽音楽（ポピュラーミュージック、ロック）を通じた文化部活動です。主な活動は、部員同士でバンドを組んで、楽器演奏やアンサンブルの向上を目指します。その中で音楽の楽しさや深さを知り、様々な感受性が育まれていきます。

文化部は個人での活動や創作がメインですが、音楽系部活動は「合奏」「合唱」を基本としているため、複数人で音楽を奏でること、人間同士が直に「合わせる」

ことが前提です。そこでは個々の技術や知識だけではなく、相手（仲間）のことを気かけたり、信頼関係の築き方などを学んでいきます。また、発表会などで演奏を披露する時には、裏方やスタッフとの連携や協力、全体を見渡す感覚が必要となり、そういった共同作業からは、責任感や思いやり、他者を尊重する気持ちなどが育まれます。

部活動は、他者や社会とのつながりを学ぶ場であり、教育現場の中でも大きな意味を持つ存在です。しかし、集団での協調性を身につけるためだけではなく、発想力や実行力といった人間力、自主自律の精神を学ぶ場でもあります。

DTMの普及

軽音楽部には、クリエイティブテイの存在が欠かせません。ポピュラーミュージックの世界的な流行の一端は、楽曲やフレーズ、表現方法などを演者自らが作り出していくところにもあります。かつては、個人が自宅で音楽を作る「宅

録」が音楽好きな若者：特に作曲をしたいプレイヤーを中心に行われていました。主に、バンドをやっている人がメンバーに自作曲のアイデアを聴かせるためのデモテープ作りや、簡易的な自主制作音源を作ることが目的でしたが、10〜20年ほど前までは機材にかかる費用も高く、世間的には少しマニアックな趣味という程度にとどまっていた。

しかし、時代は変わり、デジタル化とインターネットの普及、動画配信サイトやSNSの登場、低コスト高機能な機材やDAW（デジタルオーディオワークステーション）ソフトウェア、アプリケーションの開発などにより、宅録はDTMと呼ばれ、以前とは比べものにならないほど手軽に行えるようになりました。そのおかげで、現在ではバンドをやっているかどうか、楽器演奏ができるかどうかに関わらず、DTMを楽しむ人が増えています。

昨今では、ヒットチャートに賑わっているほとんどのアーティストがDTMの技術と機能を駆使して音源を制作しています。また、ライブではDTMで作られ

「イター」など呼びますが、海外では「プロデューサー」と呼ばれることが多いようです。DTMを単なる創作活動の一種と捉えるのではなく、音楽を統括して作り上げることと捉えらる、要求されるスキルの高さが想像できます。

また、バンド活動とDTMは一見相容れない概念のように思えますが、両者をうまく取り入れることによってより豊かな音楽活動が可能となります。例えば、DTMで得た経験をバンドに還元させる

ことでアレンジの幅が広がったり、実際に演奏する前にデモ音源を作って確認したり、DTMで制作した楽曲を同期させてバンド演奏に取り入れるなど、それまでにない新しい発想と表現を生み出すことが期待できます。

最も大きなメリットは、バンド演奏が得意ではないという部員も自分のペースで音楽制作を楽しむことができることです。部活動で様々なことを学ぶチャンスや、埋もれていた音楽的な才能が開花するきっかけになるかもしれません。

軽音楽部におけるDTMの未来

しかし、DTM導入にはいくつかの課題もあります。

初めのうちは、簡易的に自分のタブレットやスマートフォンを使って見よう見まねで行っていたとしても、活動が盛んになればスペックの高いパソコンや周辺機器、そして活動場所が必要になってきます。部費で共有機材を購入するか、パソコン教室があれば使用の交渉を行う必要があります。少し前の話ですが、京都府の日星高等学校ではパソコン部の中に音楽班があり、DTMでの作曲活動を行っていたそうです。機材や活動場所の共有もアイデア次第かもしれません。

また、学校内にDTMを指導できる人がほとんどいないことも課題の1つです。この部分は、部活動の力を存分に発揮して、外部指導員を招いたりワークショップなどに参加していくといった方法でクリアしていくしかありません。インター

た音を同期させながら人間が生演奏することも珍しくありません。今や、ポピュラーミュージックやエンターテインメント業界とDTMは、切っても切れない関係になっているのです。

そんな、音楽の世界では定着化しているDTMですが、軽音楽部にはまだあまり浸透していません。バンド活動や楽器演奏で手がいつぱいなのだろうと思いますが、音楽と触れ合いながら自己を成長させていく…という意味においては、今後より多くの部員がDTMに関わることで、バンドによる活動では得られなかった新しい学びや相乗効果が生まれてくるのではないかと思います。

DTMが軽音楽部に与える影響

DTMが軽音楽部に導入されることで、多くのメリットが期待できます。

まず、個人の音楽スキルの向上です。DTMを行うには、優れた楽曲創作能力と1人でやり抜く力、幅広い知識が求められます。バンドでは皆んなでアイデア

ネットにもいくつか動画が公開されていますが、当協会ではDTMの講習会も開催しています。

クリエイティブな活動を標榜する文化部、中でも軽音楽部では、自由な活動スタイルで参加できることが理想です。個人で行うDTMの方が性に合っているという部員や部外の生徒の居場所として存在していて欲しいと思います。乗り越えなければいけない課題もありますが、DTMは軽音楽部に様々な相乗効果と、より多くの生徒が音楽を楽しむ環境を作り出せる可能性を秘めています。音楽的な多様性は、お互いに刺激し合ってモチベーションを上げ、活動の幅を広げていきます。

勝手な妄想ですが、演劇部の舞台音楽や映画部のサウンドトラックを担当したり、生演奏では難しい他の部活動とのコラボレーションも不可能ではありません。さらには、美術部の作品に合わせて音楽を作ったり、校歌斉唱や体育祭・文化祭の音楽を担当したり、運動部の試合の応援に向く…など、放送部や吹奏楽部の変わりもできてしまします。

また、動画サイトやSNSへの投稿、創作楽曲コンテストなど、作品の発表の場も今後は増えていくでしょう。当協会では、定期的に「オリジナルソング・グランプリ」を開催しています。オリジナル曲であればDTMでの作品でも応募可能で、すべての応募作品に専門家からアドバイスがもらえます。ぜひチャレンジしてみてください。

文・辻 伸介



iPhone、iPadで学ぼう！
GarageBand 完全攻略
講座レポート



第2回 全国高等学校音楽部
オリジナルソング・グランプリ
（募集は締め切りました）



部活動運営

大会の「効果」と「注意点」

後編

辻 伸介

NPO法人全国学校軽音楽部協会副理事長。ドラマー。アーティストのサポート、ディレクター、インストラクターとしての活動の他、元音楽専門学校主任講師及び学科長を歴任。著書に「Drum Book」「マンガでわかる!ロックな楽典」。

軽音楽部の大会における効果と、そこに内在する注意点を考察していきます。前回は、時代とともに変化してきた日本人の「個性」と「勝敗」の考え方について、「一般的な見地から検討してみました。後編となる今回は、大会の在り方についてや生徒にとってより良い大会の開催とはどういったものなのか……といった視点で考えていこうと思います。」

近代における「競う」ことの変化

かつての日本では、社会の荒波に負けない力を身につけていくために、学生時代から努力が実って勝つことや、悔しさをバネに次へ向かう経験をするのが大切だとされてきました。確かに、それは人生にとって大きな財産となります。部活動の中で「力を合わせて勝つ」経験も、社会に出た時に役立つでしょう。

戦後の、人口増加や高度経済成長を土台とする、世界の国々に追いつけ追い越せだった時代は、受験戦争をはじめとした人生の「勝負」に勝ち残っていくことが目標でした。しかし、資本主義社会で

はその競争が結果的に貧富の差を生み、憎しみ合いの発端となっていることも確かです。

豊かな人生を送るためには、他者との勝負や比較に勝つといった外向的なものだけではなく、自分自身の成長や自己評価を高めるなど、内側に向けた感情であるとの考え方も必要です。部活動の大会至上主義、勝利至上主義からの脱却が叫ばれる現代において、文化部がどのような方針で大会を行うのかは、重要なポイントとなるのかもしれませんが。

軽音楽部のエンタメ化に警鐘

文化芸術についての活動を行う文化部において、大会は運動部以上にデリケートです。そもそも、文化芸術への採点や勝負に無理があるともいえる中、特に軽音楽部の大会では主旨や理念の共有感が薄く、審査方法やエンタリー方式も煩雑です。課題曲の設置、使用楽器や出演者の人数制限、コピー曲かオリジナル曲かのカテゴリー分けなどレギュレーション

に統一はなく、審査も基本的に各審査員の「感覚」で採点されています。

出場する生徒にとっても、そういったノンジャンル対決の楽しさを味わうことが目的なのであれば良いのですが、勝負としての想いが過熱していくと、審査結果や審査過程、審査員の資質にまで意義を唱えなくなるのが人情です。

伝統のある文化部活動では、審査方法や審査員に係る基準なども、長年の紆余曲折の中で確立させています。歴史の浅い軽音楽部には、まだ全国的な基準はありません。異なる大会では異なる基準で審査が行われ、その場の審査員の裁量に任ざれています。軽音楽部の未来を見据えた時、大会の在り方に早急な統一が求められます。

既存の音楽系部活動との違いで最も怖いのは、軽音楽部のエンタメ化です。もともとポップカルチャーを土台とする部活動なので、放っておくとすぐに派手さや目立



たが、自らが自らの方法で自己表現する音楽であることに違いはありません。その主張を妨げないように配慮しつつ、部活動であることの本質を踏み外さないことが大切なのだと思います。

「勝つ」ことより「学ぶ」大会へ

大会では、当然ながら勝つことより負けることが圧倒的に多くなります。勝った時よりも、満足いく判定や評価が得られなかった時こそ成長のチャンスです。その時に顧問の先生や周りの大人が取る行動によって、学びの種類や質、量は変わってきます。

ベストは「適度な競い合い」です。勝敗は結果に過ぎません。どんな結果になったとしても、奢ったりネガティブな感情にならず、前向きに次への活力に変えられる心を持つようになつて欲しいと思います。大会は単にどちらが良いかを競うのではなく、人とのつながりや自分の成長に対しての「学び」が目的となっていることが望ましい姿です。近年競技化する傾向が多い文化部でも、大会についての在り方を考えていくべき時代なのではないかと思っています。

他の文化部の大会に対する取り組みなどを、愛知県高等学校文化連盟のご協力のもと取材させていただきました。文化部の先輩方が大会にどのような効果と注意点をもちなのかに、軽音楽部との比較検討の参考に「一読ください」。

文・辻 伸介

吹奏楽部

愛知県高等学校文化連盟吹奏楽専門部会長
愛知県立春日井東高等学校 校長
清水貴子

吹奏楽部の年間活動は、全日本吹奏楽コンクールと中部日本吹奏楽コンクールを中心に動いています。コンクールの内容は長い歴史の中で決まってきたもので、課題曲と自由曲を演奏し、5点満点ずつ、計10点で採点されます。

課題曲は毎年4曲を新たに別々の作曲家に依頼し、春にプロの模範演奏が録音されたCDと共に楽譜が販売されます。その中から各校が選曲して春から練習を始めていきます。自由曲は、各出版社が譜面のレンタルも行っています。

大会には、大編成、小編成、ブライマリー（未達だけと頑張る）部門でエントリーします。審査員は、音のバランス、音色、音程、ダイナミクスなど、音楽の基礎的な要素を審査します。各点数は一般公開されませんが、各校には講評と共に送付されます。審査員の数は、地区大会は5人、県大会は7人、全国大会は10人……と増えています。音楽大学の教授やプロのオーケストラ団員などに依頼して、毎年顔ぶれは変わります。

賞は、全出場校に金、銀、銅賞が与えられます。比率が決まっていて、出場校の数によって該当校数が変わります。

郷土芸能部

愛知県高等学校文化連盟郷土芸能専門部会長
日本福祉大学付属高等学校 教頭
今田和弘

愛知県の郷土芸能専門部の大会は、和太鼓、からくり人形、よさこい……と幅が広いので、審査員は多ジャンルのプロに依頼しています。全国高等学校総合文化祭の基準をもとに審査をお願いしていますが、審査員から「どんな生徒を育てたいかは先生たちの仕事でしょ」との声があり、現在は顧問審査表も審査の参考資料になっています。

それぞれの顧問が大事にしているのは、地域に残っている伝承芸能や受け継がれている物語、民話をベースにして、そこに生徒の気持ちを乗せていくことです。そうでなければ長続きしません。コーチをしていただいている地域の方々には、順位をつけてしまうことを申し訳なく思いますが、皆さん懐が深く、子供たちをちゃんとフォローしてくれます。

愛知県の参加校は17校ですが、上位2校が全国大会に推薦されます。審査員からの講評は、それも勉強、課題発見につながるのの想いから、すべて全校に送付しています。長く続けていくには生徒にきちんと考えさせ、やりたいことを話し合わせ、その追求のためにコーチの指導を受けるようにしていくことです。

演劇部

愛知県高等学校文化連盟演劇専門部会長
名古屋市立緑高等学校 校長
押切浩光

戦後間もない頃から始まった演劇部の大会は、紆余曲折の末、現在は生徒主導の大会運営が行われています。20年ほど前から、競技ではなく生徒が集まって学ぶ場であるとの考えのもと、コンクールではなく大会と呼称しています。かつて、勝ち負けを重視する行動が多く見られたため、愛知県では「生徒講評委員会」が設置されました。これは全国でも先駆的で、今では中部方式と呼ばれています。

地区大会では、生徒講評委員会と顧問講評委員会が各校上演後の幕間にそれぞれ講評し合います。最終的には上位大会へ進む学校を投票で選びますが、意見が割れたらどんなに時間がかろうと話し合い、再投票を繰り返します。県大会では専門家をお招きしてアドバイスをいただきますが、投票権はありません。

演劇部の大会は、運営自体も各校の生徒で組織される「生徒運営委員会」が行います。他にも、幕間で感想をすぐに語り合う「幕間討論」、ロビーに感想を書いていく「感想記入ボード」で、生徒の講評活動を活性化させています。上演、運営、観劇の3つが揃って演劇大会であるという考えが基本方針です。

「考えるキツカケ」を与えることが、未来を担う生徒たちを教育する際に重要になる

部活動を考える

VUCA時代における
顧問の関わり方NTTコミュニケーションズ株式会社
キャリアコンサルティング・アドバイザー

大田栄司 × 三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
理事長

「VUCA（ブーカ）」と呼ばれる、先の見えない時代に突入しました。普段の教科授業も大切ですが、VUCAの時代は、部活動においても考え方を見直さなければいけません。軽音楽部においては、文化部活動の1つであり、運動部のように大会などで勝敗が決まるものではないので、正解のないVUCAの時代を象徴する部活動の1つと言えるかもしれません。そこで今回は、NTTコミュニケーションズ株式会社でキャリアコンサルティング・アドバイザーを務める大田栄司氏を迎え、意見交換を行いました。

「VUCA（ブーカ）」と呼ばれる、先の見えない時代に突入しました。普段の教科授業も大切ですが、VUCAの時代は、部活動においても考え方を見直さなければいけません。軽音楽部においては、文化部活動の1つであり、運動部のように大会などで勝敗が決まるものではないので、正解のないVUCAの時代を象徴する部活動の1つと言えるかもしれません。そこで今回は、NTTコミュニケーションズ株式会社でキャリアコンサルティング・アドバイザーを務める大田栄司氏を迎え、意見交換を行いました。

大田…解決するための糸口は、2つあると思います。1つは顧問の先生が自ら意識を変えること、もう1つは、学校現場はもちろん、外部団体からそういった考え方や意見を提示し、顧問の先生方に伝えることです。この両方面からのアプローチが必要ではないでしょうか。

企業や実践の場では「いろいろなことをやりなさい」という風潮があるのですが、マネージャーの仕事が飽和状態にあってはいけませんが、しきりに言われているのが「自ら動きなさい」ということです。そういった方針をマネージャーから部下に伝えるように、部活動においても顧問の先生から生徒に対して、「自分で考えるものだ」と、説明する必要があります。その際、「それって、先生の責任放棄だ

よね…」という風に見えてしまうと思うのですが、そもそもの「部活動の在り方」を生徒たちに説明した上で、先生が考え方を明示するのも大切です。生徒との関係性がしつかりとできていれば心配ないのですが、その下地がないと、急に押しつけてきた感じに受け取られるので、信頼性が成り立っているのが前提になるのですが…。

三谷…部活動は顧問のものではなく、生徒が主体的に取り組み、活動する場ですので、改めて部活動の在り方を説くのは良いですね。

三谷…部活動はプロを養成する場所ではないので、うまくなることや勝つことだけがすべてではないと思います。先生は「教えるプロ」だとすると、それを部活動に置き換えた場合、先生の役割は「生活指導」や「高校生として…」という部分であり、ギターやベースの弾き方を教えたり、和太鼓や習字のコツなどの指導は外部の専門機関や専門家に頼むべきかも

カケ」を与えるのが、将来を担う生徒たちを教育する際に重要になると思います。今後、ますますAIや教育的なツールが普及してくると、生徒が1台ずつタブレットを使用して、一人ひとりに合ったスピード感で授業を受けたり、課題をこなしていった方が、それぞれにカスタマイズされた教育につながり、学習の効果としても伸びていくと思います。そうすると、「教室」という場所は生徒たちが自分のペースで勉強していく場になっていくので、

「先生は必要ないんじゃない？」という考え方になりがちですが、そうではありません。



当然、一人ひとりの行き詰まるポイントや時間がかかる部分は違うものの、その対して、コーチングの観点で個別の悩みを解きほぐしたり、個別にアドバイスをしたりするものが、先生の役割になるはずで

す。そんな時代が10年後に来るのか、20年後に来るのか、明確な時期はわからないものの、そういった教育の流れになるのは、ほぼ間違いないだろう…と考えた場合、今のタイミングで「コーチング」というものを「部活動の顧問」という関わりの中で実践し、予習しておいた方が良いのかもしれない。

なのであって、すべての知識を持ち合わせている必要はないと思います。そんな考え方がコーチングの特徴であり、これからの時代に合った関わり方ではないでしょうか。

大田…顧問の先生に専門的な知識があった方が、関わり方の幅が広がるのは間違いありません。ただ、私は専門知識がなくとも、先生が顧問を務めることは十分に可能だと考えています。

例えば、何か課題にぶつかったり、行き詰まってしまった場合に「何を使って」どこから調べようか？という視点を生徒に与えることによって、「図書館で専門書を探してみよう」とか「YouTubeで検索してみよう」という行動に移ることができるはずです。要するに、コーチングでは、すべての情報を知っている必要はなく、どういう風に考えたり、対処したりする術があるのか、あるいは、生徒に対して、一歩を踏み出す勇気を与える「声かけ」ができるか、という部分が重要

大田…言い方を変えると、「ティーチングに逃げない」ということです。解決策をパン！と出した方が時間を短縮できますし、労力もかからないので、答えを提示するティーチングをしてしまいがちなのですが、先生方にはコーチングを取り入れながらグッと堪えてもらい、生徒たちの創造性や先見性を高めていくためにも、学びや経験の機会を尊重していただきたいと思っています。

高等学校軽音楽コンテスト関東大会 夏休み特別企画

Special Live at Fender Flagship Tokyo

2024年8月30日(金)



夏休みも終わり、2学期が目前に迫った8月30日(金)。今春に実施した「第4回高等学校軽音楽コンテスト関東大会」を記念して、世界的なギター、ベース、アンプメーカーであるフェンダーがスペシャルライブを開催。先の大会でグランプリを受賞した神奈川県立相模原高等学校の「せんとらる」と、準グランプリを受賞した神奈川県立藤沢総合高等学校の「UPs WINGS」が招かれ、演奏を披露しました。

会場は2023年6月に開業した、フェンダー世界初の旗艦店「Fender Flagship Tokyo」のイベントスペース。エレキ・ギターやエレキ・ベース、アコースティック・ギターなどの新製品が展示されており、来店客は気軽に試奏することができます。ライブやトークショーといったイベントも定期的に行われていますが、制服を着用した高校生が同会場で演奏するのは初めてとのこと。

定刻になると、両バンドのメンバーがステージに登場。自己紹介やバンド名の由来、楽器を始めた理由などを説明したほか、「どうすれば、バンドの演奏がまとまるようになるのか?」という司会者からの質問にUPs WINGSの広橋さんは「バンド全員で合わせる時間をしっかりと作るのももちろん、メトロノームに合わせながらのクリック練習を根気よく続けたり、その際も裏拍を意識できると自然にグルーブ感が生まれて、バンドの演

奏もまとまると思います」と回答しました。

一方のせんとらるもバンド名の由来や目指しているバンド、楽器を始めた理由などを紹介し、バンドがうまくなるコツの質問にベース担当の城平くんは「クリック練習に取り組んでみたり、自分の担当楽器ではないパートのフレーズを確認して、第一印象を伝えることをやっていました。あとはドラムとベースだけでリズムを確認するなど、よく練習を細分化していました。メトロノームに合わせる際もクリック音をハーフトンポにするのがオススメです」などと詳しく紹介し、観客も感心している様子でした。

インタビューが終わると、いよいよ両バンドの演奏です。はじめに、準グランプリを受賞したUPs WINGSが演奏し、受賞曲の「かいがらざか」をはじめとするオリジナル曲を3曲披露。続く、せんとらるも受賞曲の「ナンセンス」と「すごいミュージック」の2曲を演奏し、軽快なMCも交えながら会場を大きく沸かせました。

両バンドの演奏後には再びインタビューが行われ、オリジナル曲の制作工程を紹介。DAWソフトで大まかな楽曲の骨子を組み立てて、各メンバーに伝えたり、アコースティック・ギターでコード進行を考えてからメロディを考えたり、「今回は、こんな感じの曲にしたい!」というのを決めた上で、それっぽい曲をたくさん聴いて、参考にするなど、

いろいろなアプローチ方法があることがわかり、観客は大きな拍手で称え、スペシャルライブは盛会のうちに終演しました。



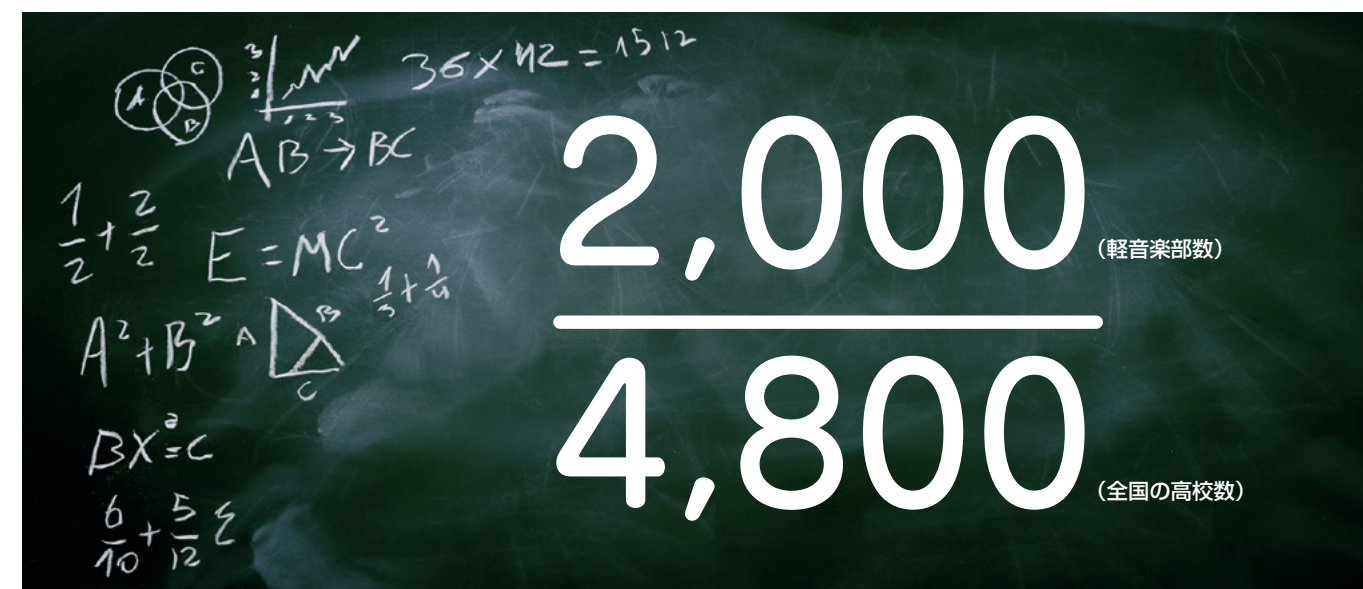
▲せんとらる／神奈川県立相模原高等学校



▲UPs WINGS／神奈川県立藤沢総合高等学校



▲スペシャルライブに出演した2バンドで記念撮影



全国に約4,800校ある高等学校の中で、軽音楽部があるのは約4割の2,000校に過ぎません。音楽が好きではない高校生はほほいないでしょうし、文化祭にもバンド演奏の出し物があるはず。それほど、高校生と音楽やバンド活動が親密な間柄にもかかわらず、なぜ約6割の高校には軽音楽部がないのでしょうか。1つには「専門知識が不可欠である」という思い込みによる顧問不足があるでしょう。2つ目はバンドの持つやんちゃなイメージや思い込みがあるでしょう。昔はともかく、現在は部員の約8割が女子生徒である上に、今の時代に「不良」はいません。この2つの思い込みを払拭することが、軽音楽部を全国の高校に普及させる近道であり、条件であると思います。

軽音楽部のある社会、音楽で彩る未来

「音楽が好きではない高校生はいない」と言っても過言ではないでしょう。通学途中にスマホで聴く音楽や文化祭のステージを盛り上げるバンド演奏などが物語りますが、それにもかかわらず、全国の高校の約4,800校のうち、約6割の2,800校には軽音楽部が存在しないという現状は大きな課題です。その背景には「専門知識が不可欠」という思い込みがあり、顧問の専門知識不足が軽音楽部の立ち上げを阻んでいるケースが少なくありません。また、バンドが持つ昔ながらの「不良」というイメージも軽音楽部に対する誤解や思い込みを生み出し

ていると思います。しかし、実際の軽音楽部は部員の8割が女子生徒であり、多様性に富み、健全な活動を行っているのが現状です。また、最近の高校生には昔のような「不良」は、ほほいしません。死語とまでは言わないまでも、絶滅危惧種であることは間違いないと言えます。

全国学校軽音楽部協会の活動

当協会はこれらの誤解を解き、すべての高校生に音楽を楽しむ機会を提供することを目指しています。そのためには個々の高校の軽音楽部のレベルの高さを競うのではなく、軽音楽部の誤ったイメージを払拭し、正しく理解してもらうための認知活動が重要になると考えています。そこで、当協会では…

演奏会の実施：全国各地で高校生による演奏会を積極的に開催し、軽音楽部や楽器演奏の魅力を広く発信しています。

顧問向け研修会の実施：ある程度は知っておきたい専門知識と、ティーチングとコーチングの使い分けに関する研修会を実施しています。

情報発信：ホームページやSNS、YouTubeなどを通じて、軽音楽部に関する情報を発信し、情報収集の場を提供しています。地域との連携：地域の音楽家や音楽教室と連携し、高校生が気軽に音楽に触れられる環境づくりを支援しています。

これらの活動を通して、私たちは軽音楽

部の設置率向上を図り、全国すべての高校に軽音楽部が設置されることを目指しています。また、音楽を通じて、協調性や表現力、創造性に富んだ人材を育成し、学校だけでなく、地域社会での役割を意識し、あらゆる世代に活力を与え、文化的な交流を深めていきたいと考えています。

軽音楽部が持つ力

軽音楽部は単なる趣味の場ではありません。音楽を通じて、自分の気持ちを表現し、自己肯定感を高めることができます。また、バンド活動を通じて、仲間と協力し、目標に向かって努力する大切さや「協調性」を学びます。さらに、オリジナル曲の制作やアレンジなどでは「創造性」を発揮する機会が豊富にあります。軽音楽部での経験は、生徒たちの将来に大きな影響を与えます。

ある高校の軽音楽部では、顧問の熱意と生徒たちの努力によって、地域の音楽祭で優勝し、自信と達成感を味わいました。この経験は生徒たちの進路選択や将来の目標設定に大きな影響を与え、彼らが社会で活躍するための礎になりました。私たちは、すべての高校生が音楽を通じて豊かな経験をし、心身ともに健やかに成長することを願っています。軽音楽部が学校生活における重要な一コマとなり、生徒たちの心に一生残るような思い出になることを目指します。

文・三谷佳之

シン軽音楽部

Aー時代に求められる「教えない教え方」

三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会
理事長

これからの新しい時代を生きる高校生に求められるのは、自ら考えて行動する力です。それには、正解はありません。一方、生徒を指導する立場の教師にとっても未知の世界であり、指導はこうするべきだ、という正解はありません。自ら考える力を教える際に回答を与えては、本末転倒です。すなわち、形にはめた教え方をしないことが、これからの教え方に求められる姿勢ではないでしょうか。

正解のない時代の「教えない教え方」

従来の教育では、教師が一方的に知識を教え、生徒がそれを暗記するというスタイルが一般的でした。しかし、正解のない問題が多様化する現代社会において、このスタイルはもはや通用しません。求められているのは、与えられた情報をもとに自ら考え、判断し、行動できる力です。この変化は生徒だけでなく、教師にとっても大きな挑戦です。教師もまた、すべての答えを知っているわけではあり

ません。むしろ、未知の領域に共に挑戦していくという意識を持つことが重要です。「教えない教え方」とは、生徒に答えを直接与えるのではなく、自ら考えるきっかけを与えることを意味します。これは生徒の主体性を引き出し、創造性を育む上で非常に有効な方法です。

・型にはめない…型にはめた教え方は生徒の思考を制限し、創造性を阻害する可能性があります。

・アクティブラーニングとの関連…アクティブラーニングは生徒が主体的に学習活動に参加し、知識や技能を習得する学習方法です。「教えない教え方」はアクティブラーニングを促進する上で不可欠な要素です。

また、AIの発展により教師の役割は大きく変化すると予想されます。

・ティーチングからコーチングへ…教師は知識の伝達者から、生徒の学習をサポート

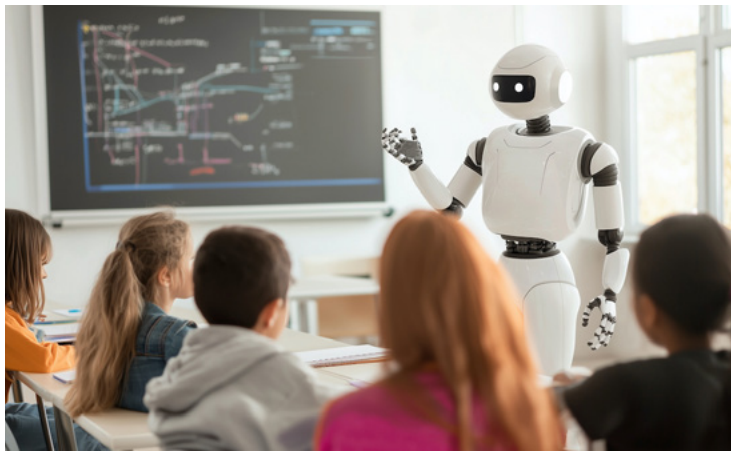
トするコーチへと役割をシフトしていく必要があります。

・生徒の「自分から学ぶ」姿勢への導き…教師は生徒が自ら学びたいと思う気持ちを育み、学習意欲を高めるための環境を整えることが求められます。

・失敗を恐れずに挑戦する姿勢…部活動では勝敗にこだわるだけでなく、失敗を恐れずに挑戦し、そこから学ぶことの大切さを教えることができます。

・チームワークの大切さ…部活動を通して仲間と協力し、目標に向かって努力することの大切さを学ぶことができます。

AIの発展により、教育の在り方は大きく変化しています。教師は知識の伝達者から生徒の成長をサポートするコーチへと役割をシフトしていく必要があります。生徒は自ら考え、判断し、行動できる力を身につけ、社会の変化に対応できる人材へと成長していくことが求められます。部活動は、このような人材育成において重要な役割を果たすことができます。



す。教師と生徒が共に学び、成長していくという関係性を築くことが、これからの教育の理想と言えるでしょう。



Event Calender

お問い合わせ：info@keionkyo.org TEL：045-913-0901

軽音楽部セミナー

12月21日(土) 会場：専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲アレンジ講座)

軽音合同演奏会

12月7日(土) 会場：専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー (第16回 愛知県高等学校軽音楽大会/バンドクリニック)
2月1日(土) 会場：専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー (オリジナル曲限定)

その他

12月5日(木) 第36回 全国高等学校文化連盟研究大会三重大会 (四日市市文化会館)
12月25日(水) 第15回 愛知県高等学校軽音楽大会
3月25日(火) 第6回 高等学校軽音楽コンテスト関東大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール)
3月29日(土) 第9回 高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会 (宇治市文化センター 大ホール)
3月31日(月) 第11回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会 (名古屋文理大学文化フォーラム (稲沢市民会館))



配布校リスト

全国の約4,800校の高等学校の中で軽音楽系の部活動がある2,042校のリストです。「月刊 軽音楽部」は顧問あてに無料配布しています。



リストはこちら





役に立つオススメコンテンツ

持続可能な軽音楽部を目指そう！

軽音楽部を持続可能にするためには、顧問に頼らず指導は先輩が後輩に行う、軽音楽部は「音楽を通して社会人としてのスキルを学ぶ」場であるなど社会から認めてもらえる部活動づくりを紹介しています。



左のQRコードから記事を読むことができます





インタビューを終えて・・・

今月も多くの有識者や関係者の皆様にお話を伺うことができました。

「学校教育の視座」では、日本部活動学会の理事であり、中京大学、名古屋音楽大学ほかの非常勤講師である玉木博章先生にインタビューを実施。「学校教育の一環である」と言われる部活動において、仲間と一生懸命に励んだ経験や過ごした時間というものが社会に出た際にどのように活きるのか、「学校教育」という視点から部活動の在り方や存在意義について伺いました。印象的だったのは「顧問の先生に(部活動の)専門知識は必要ない」という点です。部活動だからこそ、「自分たちは何をしたいのか?」「今の課題は何なのか?」ということを真剣に悩み、考える過程が特にこれからの時代は大切であるという考えに大きく共感しました。

「部活動を考える」では、世界的なギター、ベース、アンプメーカーであるフェンダー・ミュージック株式会社の代表取締役社長であり、アジアパシフィック統括のエドワード・コール氏にインタビュー。楽器メーカーという立場から、音楽を愛

する心や楽器の演奏というもの若い世代にどのようなプラスの影響を与えるのかを伺いました。取材では、オリジナル曲を作ったり、演奏会を企画したり…など、様々な経験をすることで、それらが自分の「筋肉」になり、自ら発信していく力を養うことにつながるという考えをお聞きし、軽音楽部のポテンシャルの高さを再確認しました。



▲エドワード・コール社長と三谷佳之理事長

「入賞校顧問に聞く」では、今夏に開催した「第10回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会」で準グランプリを受賞した三重県立津西高等学校 オリジナルソング部顧問の松岡朋宏先生を取材。同校

のユニークな活動として、文化祭や引退ライブの演奏順を決める「オーディション」を大々的に行っており、そこには歴代のOBやOGも来校し、審査を行うとのこと。部員たちは緊張しながらも演奏を披露するそうですが、そういったオーディションも活動の目標になるほか、学校や卒業生からも応援される部活動を実践されている様子に感銘を受けました。

「大会の効果と注意点」の記事では、軽音楽部における大会の在り方を考察。後半では、愛知県高等学校文化連盟のご協力のもと、吹奏楽専門部や郷土芸能専門部、演劇専門部の先生方を取材し、各専門部における大会への取り組みを伺いました。

次号は11月25日(月) 発行



昭和音楽大学 | 昭和音楽大学短期大学部

ポップ&ロックミュージックコース／ジャズコース

受験講習会

個人レッスンでプロの技を身につけよう！
1/26 Sun 3/23 Sun ●実技個人レッスン ●ポピュラー音楽理論 他

オープンキャンパス

昭和音大を体感してみよう！
3/22 Sat ●コース説明 ●模擬授業 ●キャンパス見学 他

アンサンブルセミナー

本学教員がアドバイス!!
ジャムセッションを楽しもう。
個人またはバンド単位で参加可能 3/23 Sun

バンドを組んでいる方は
メンバー全員で参加できます。
軽音部でのご参加も大歓迎!



受験対策スクール
"パスウェイズ"
Pathways
無料体験レッスン受付中!

音大受験生に対し、
本学の講師陣が継続的に
個人レッスンを行います。
オンラインも可能です。

[対象：高校生(既卒者含む)、中学生]

▶ 11月現在の情報です。日程や内容は変更となる場合がありますので、詳細や最新情報はウェブサイトをご覧ください。◀



お申込・
詳細は
ウェブで!

お問い合わせ／入試広報室

0120-86-6606

nyushi@tosei-showa-music.ac.jp

〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1

オンライン個別相談、実施中! 平日 11:00 ~ 18:00

本学教員・進学アドバイザーが質問にお答えします。(1回30分程度)
◎希望日の3日前までにお申込ください。

教員紹介

(2024年11月現在)



軽音
ちゃん
ねる



出場バンドの演奏映像を YouTubeで公開中!



QRコードを読み
取って、チェック!

2020年から最新の夏大会(2024年)まで、
全国学校軽音楽部協会主催の大会に出場した
583バンドの演奏映像を視聴できます。プロ
ジェクターで動画を映し出したり、部のPAシ
ステムで音声を大きく出力するなどして意見
交換や検証を行うなど、部活動全体はもちろ
ん、各バンドや個人でも、他校のバンドから
学び、演奏技術やパフォーマンス、ステー
ジでの振る舞いの参考に活用してください。

第5回

高等学校軽音楽コンテスト 関東大会

25 バンド



第8回

高等学校軽音楽コンテスト 近畿北陸大会

19 バンド



第15回

愛知県高等学校軽音楽大会

30 バンド



第10回

高等学校軽音楽コンテスト 中部大会

20 バンド



第1回

高等学校軽音楽文化祭 国際大会

8 バンド



特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



全国学校軽音楽部協会

エンタメ&クリエイティブの専門学校



VISUAL ARTS

東京 / 名古屋 / 大阪 / 福岡

ビジュアルアーツ・アカデミー

ACADEMY

Akademeia 21st Century



ミュージシャン
声優・俳優・タレント
ダンス・ダンスボーカル
ネットタレント・インフルエンサー
映像クリエイター (3DCG・VFX)
テレビ放送・映画スタッフ
コンサート・舞台スタッフ
レコーディングエンジニア
サウンドクリエイター
映像音響 (MAエンジニア)
写真・デザイン
マスコミ出版
芸能マネージャー
特殊メイク

※地区によって教育分野が異なります

大学も専門学校も超える新たな学びの場



21世紀アカデメイア
Akademeia 21st Century

専門学校 東京ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 東京ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 大阪ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 ビジュアルアーツ専門学校より校名変更)

専門学校 名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 名古屋ビジュアルアーツより校名変更)

専門学校 福岡ビジュアルアーツ・アカデミー
(2024年4月 専門学校 九州ビジュアルアーツより校名変更)



楽しみつつ、努力を 継続できること!

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はプレイヤーの仕事について、専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー／音楽総合学科 ギターコースの加藤先生に伺いました。

ー プレイヤー (演奏者) の仕事全般について教えてください

加藤：大きく分けると、シンガーやアーティストのCDや配信専用の音源を制作する上での「レコーディング」のサポートと、それに付随するライブやツアーの「演奏」のサポートに分類できます。この2つが大きな柱になります。また、通常はレコーディングの現場にアレンジを専門に行うアレンジャーさんがいるのですが、いない場合は自分のパートのアレンジも仕事に含まれることがあります。

ここ数年のトレンドで言うと、やはりYouTubeの配信やTikTokの投稿が増えているため、どの作業も自分で行う方が多い印象です。自分の楽器の演奏だけに留まらず、デスクトップミュージック (DTM / Desk Top Music) …つまり、演奏からレコーディングまですべて自分でやってしまうアーティストが増えてきていると思います。

ー 入学前に、ある程度の知識は必要ですか? 高校時代にやっておいた方が良いことも教えてください

加藤：シンガーやプレイヤーを目指す人たちは音楽が好きだったり、聴く側よりも演奏したり、「歌いたい!」という意思があると思うので、やはり自分の好きな曲だったり、興味のあるものをたくさん聴いておくのが良いと思います。

聴き方のアドバイスを大まかに言うと「この曲、カッコ良いよね!」という感想を持った際に「具体的には、どこがカッコ良いのか?」「他の楽曲と比べて、どの部分に特徴があるのか?」という感想や分析する目線を持ると良いと思います。自分の好きな楽曲のコード進行やサウンドの傾向を分析しながら音楽が聴けると、それが自分の糧になるのはもちろん

ん、謎解きにもなるので、答えがわかった時が快感になります (笑)。

また、自分が上達したいと考えている楽器の構造を深く理解したり、ギターやベース、キーボードなどの簡単なコードの押さえ方やドラムであれば、いくつかのビートを叩けるようにしておく、スムーズに上達できると思います。

ー この仕事の楽しいところを教えてください

加藤：レコーディングに関して言うと、自分が弾いたものや叩いたもの、歌ったものが、YouTubeやテレビ、ラジオ、SNSをはじめ、パブリックなところで流れたり、聴くことができた時の高揚感ですね。「自分が携わった作品だ!」という思いを強く感じられる瞬間だと思います。また、ライブではバンドのメンバーがいるので、一緒に演奏する際の高揚感やお客さんと盛り上がった際の一体感というのは、やりがいを感じている部分ですね。

ー この仕事の大変なところを教えてください

加藤：楽曲のレコーディングに臨んだり、ライブでお客さんと一体になるためには、どうしても事前の準備が必要になります。日頃から自分のテクニックを磨いておかないといけないのはもちろん、コツコツと練習に時間を割くのは、やはり大変なことだと思いますし、自分一人だけでは完結できないところなので、周りの人とうまく付き合っていく「人付き合い」も努力が必要な部分だと思います。

ー この仕事は、どんな人にオススメですか?

加藤：「明るい人」が良いですね (笑)。当たり前ですが、暗い顔で現場に行っても、良いことは1つもないので、明るく振る舞える人が良いと思います。それから、「約束を守る人」

でしょうか。「◯時からリハーサルをします」という面で、30分や1時間の遅刻をしたら、みんなの足並みが揃わなくなるほか、「この人って、どの程度まで真剣に取り組んでいるのだろうか?」という風に思われてしまうので、時間や約束にルーズではいけません。

ー この仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか?

加藤：まずは「体調管理」ですね。健康でいるのは先述の約束を守ることに通じますし、例えば、ライブのツアーになると、1週間や2週間程度の旅になるので、そういう場面で体調管理ができない人は周りにも迷惑をかけてしまうことになります。日頃から規則正しい生活を心がけて、臨みたいですね。

2つ目は、よく音楽をする上で「才能がある(ない)」という表現をしますが、私は「才能=努力ができること」だと考えています。コツコツと地道な練習に取り組み、自分の状態を最高潮に保っておくこと。そういう努力をできることが才能だと思うので、「努力」も大切な要素の1つです。

3つ目は「思い切る気持ち」です。この世界は思い切りの良い人が向いており、どの現場でも緊張すると思うのですが、ビクビクすることなく、「とりあえず、やってみよう!」という強い気持ちを持てるのが大切です。



▲スタジオでのレコーディング作業も仕事の1つです